

## 2017年3月期第2四半期決算説明会 質疑応答の要旨

### <定期船事業>

問1：定期船事業の三社による統合効果は1,100億円ということですが、どのような点が大きいのでしょうか？

答1：第三者に算定を依頼しましたが、一番大きいのは購買力です。3社で別々だったものが3倍の規模を持つ1社になると契約も全く異なってくると考えています。

問2：統合効果は計1,100億円ということだが、3社とも今回の決算で定期船事業は下方修正です。利益がでる事業にしたいというのはどういうレベル感の利益を想定しているのでしょうか？

答2：統合効果は確実なもののみで試算した数値であり、効果はさらに上積みできると考えています。

問3：持株比率が3社で異なる理由を教えてください。

答3：資産価値、収益力、運航規模等を、第三者算定額をベースにして総合的に判断しました。対等の精神で臨むということを基本にしっかり経営を見ていきたいと考えています。

問4：The Allianceの進捗状況を教えてください。

答4：2か月前には大きなグランドデザインは出来上がっていましたが、韓進海運の経営破綻による組替えの影響もあり時間が掛かりました。間もなく発表できる見込みです。

### <不定期専用船事業>

問1：不定期専用船事業において通期予想を下方修正しましたが、その内訳を教えてください。

答1：金額の大きさという意味では、自動車船部門、リキッド部門、ドライバルク部門の順に悪化しました。

### <中期経営計画関連>

問1：ドライバルクのフリー船に対して、期前解約等の対策は考えているのでしょうか。

答1：期前解約等の対策が非常に重要であり、経営課題であると認識しています。自らの体力・四囲の情勢、マーケット等を総合的に判断して決定したいと考えています。

問2：社内運動「Beat The Crisis」による収益効果はあるのでしょうか。

答2：一般管理費等のコスト削減を中心に各部門で取り組むと同時に、中長期的な視点で利益を確保するためには、この1～2年の間に何を仕込むか？ということに注力しています。定期船事業の事業統合もその一つで、2018年以降の姿を大きく変えるという結論に至りました。他部門においても事業構造そのものを見直す運動を行っています。

問3：事業ポートフォリオ見直しについて今後の考え方を教えてください。

答3：新中計は来年4月から1年かけて仕上げる予定です。攻めと守りのメリハリをしっかりと示すことと、グループ経営をどうまとめるかという点も課題だと思っています。詳しくは再来年の4月にお話しできれば

と考えています。

<財務状況>

問1：バランスシートや、自己資本比率の健全性等に関する考えを聞かせてください。

答1：自己資本比率も DER 等、財務指標も大切だが、何よりもキャッシュフローが重要であり、安定的に会社運営できるようなキャッシュを持つことが大事だと思っています。

問2：今期末の営業キャッシュフローは400億円を予想されていますが、営業キャッシュフローを下げる何か特殊要因がありますか？

答2：今回は業績を下方修正したことが主因で、特殊要因はありません。

以上